

(シラバスの記載例)

ナンバリングコード：B1SCL-bcxG-10-Lx2	科目区分	時間割	対象年次及び学科
授業科目名（時間割コード：）	学問基礎科目	後期 火2	1～ 全学共通科目
社会学A sociology A	水準・分野	DP・提供部局	対象学生・特定プログラムとの対応
子ども社会学 sociology of childhood	B1SCL	bcxG	10
	授業形態	単位数	
	Lx	2	
担当教員名	関連授業科目 教育社会学		
香川 花子（大学教育基盤センター）	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×15回＋自学自習			
授業の概要			
この授業は、子どもをめぐる諸問題について社会学的に捉える視点を養うことを目的としています。子どもをめぐる問題は多々ありますが、その中でも家族、児童虐待、子どもの貧困について取り上げ、現状を把握すると共に、なぜそれがいま問題とされているのか、問題の解決・解消のためには何が必要なのか考えます。各トピックについての基礎的な知識を学ぶのはもちろんのこと、その知識を活用して自分なりの解決・解消策をまとめ、表現する力が身につくよう、ディスカッションやレポート課題を適宜取り入れる予定です。			
授業の目的			
子どもをめぐる諸問題について社会学的に捉え、表現する力を養うために、当該問題を題材として社会学の理論や考え方を理解する（共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応）と共に、それらを用いて問題の解決・解消策を提示できるようになる（共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸問題に対する探求能力」に対応）。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 授業で扱う三つのトピックについてその概要を説明することができる。 2. 子どもをめぐる諸問題の解決・解消のためには何が必要とされるのか、現状の支援策と比較しながら具体的に説明することができる。 3. 自分の主張をわかりやすく記述することができる。			
成績評価の方法と基準			
期末テスト50％（特に到達目標①に対応）、グループ発表20％（特に到達目標②に対応）、小レポート30％（特に到達目標③に対応）			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業計画】			
第 1回 オリエンテーション：社会学的視点からみる子ども問題			
第 2回 家族の社会学①：家族とはなにか			
第 3回 家族の社会学②：近代家族の変容			
第 4回 家族の社会学③：家族とジェンダー			
第 5回 家族の社会学④：つくられる性役割			
第 6回 児童虐待の社会学①：児童虐待の構築			
第 7回 児童虐待の社会学②：児童虐待と社会的支援			
第 8回 児童虐待の社会学③：児童養護施設とは			
第 9回 児童虐待の社会学④：施設からの巣立ち			
第10回 子どもの貧困と社会学①：社会階層			
第11回 子どもの貧困と社会学②：学力問題			
第12回 子どもの貧困と社会学③：逸脱			
第13回 子どもの貧困と社会学④：いじめ問題			
第14回 子どもの問題の解決・解消にむけて			
第15回 まとめ			
【授業及び学習の方法】			
授業は講義中心に進めますが、受講生の理解を助けるため適宜グループワークを取り入れます。また、各セッションで小レポートを課し、講義で学んだ内容及び授業外で自ら学んだ内容の整理を促します。第14・15回では、子どもめぐる問題をグループで一つ取り上げ、その現状と解決・解消策について報告してもらいます。			
【自学自習のためのアドバイス】			
第2回 家族問題（児童虐待以外）を扱った新聞記事を集め、授業時に紹介できるよう準備する。			
第3、4回 インタビュー調査（5名以上を対象とする）を実施し、「家族とは何か」考察する。			
第5回 「現代家族の定義」について小レポートを作成する。			
第6回 児童虐待を扱った新聞記事を集め、授業時に紹介できるよう準備する。			
第7、8回 児童虐待を防ぐための支援策について調べ、整理する。			
第9回 「児童虐待の現状と課題」について小レポートを作成する。			
第10～13回 第14・15回での報告に向けて新聞記事や関連図書を読み、報告資料を作成する。			
第14回 「子どもの貧困」について小レポートを作成する。			
教科書・参考書等			
教科書：南本長穂・山田浩之編著（2015）『入門・子ども社会学』ミネルヴァ書房。			
参考書等は授業中に適宜紹介します。			
オフィスアワー 金曜日第2講時（10:30～12:00）			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
毎回出席をとります。15分以上の遅刻は欠席として扱います。			

社会学 A sociology A : 子ども社会学 (sociology of childhood)

詳しいシラバス

☒ 授業の概要 (①)

この授業は、子どもをめぐる諸問題について社会的に捉える視点を養うことを目的としています。子どもをめぐる問題は多々ありますが、その中でも家族、児童虐待、子どもの貧困について取り上げ、現状を把握すると共に、なぜそれがいま問題とされているのか、問題の解決・解消のためには何が必要なのか考えます。各トピックについての基礎的な知識を学ぶのはもちろんのこと、その知識を活用して自分なりの解決・解消策をまとめ、表現する力が身につくよう、ディスカッションやレポート課題を適宜取り入れる予定です。

☒ 授業の目的 (①)

子どもをめぐる諸問題について社会的に捉え、表現する力を養うために、当該問題を題材として社会学の理論や考え方を理解する（共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応）と共に、それらを用いて問題の解決・解消策を提示できるようになる（共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸問題に対する探求能力」に対応）。

☒ 授業の到達目標 (②)

1. 授業で扱う三つのトピックについてその概要を説明することができる。
2. 子どもをめぐる諸問題の解決・解消のためには何が必要とされるのか、現状の支援策と比較しながら具体的に説明することができる。
3. 自分の主張をわかりやすく記述することができる。

☒ 成績の方法と基準 (③)

期末テスト 50%（特に到達目標①に対応）

グループ発表 20%（特に到達目標②に対応）

小レポート 30%（特に到達目標③に対応）

☒ 授業計画 (④)

- 第 1 回 オリエンテーション：社会的視点からみる子ども問題
- 第 2 回 家族の社会学①：家族とはなにか
- 第 3 回 家族の社会学②：近代家族の変容
- 第 4 回 家族の社会学③：家族とジェンダー
- 第 5 回 家族の社会学④：つくられる性役割
- 第 6 回 児童虐待の社会学①：児童虐待の構築
- 第 7 回 児童虐待の社会学②：児童虐待と社会的支援
- 第 8 回 児童虐待の社会学③：児童養護施設とは
- 第 9 回 児童虐待の社会学④：施設からの巣立ち
- 第 10 回 子どもの貧困と社会学①：社会階層

- 第 11 回 子どもの貧困と社会学②：学力問題
第 12 回 子どもの貧困と社会学③：逸脱
第 13 回 子どもの貧困と社会学④：いじめ問題
第 14 回 子ども問題の解決・解消にむけて
第 15 回 まとめ

☒ 授業及び学習の方法 (⑤)

授業は講義中心に進めますが、受講生の理解を助けるため適宜グループワークを取り入れます（到達目標①に対応）。また、各セクションで小レポートを課し、講義で学んだ内容及び授業外で自ら学んだ内容の整理を促します（到達目標③に対応）。第 14・15 回では、子どもめぐる問題をグループで一つ取り上げ、その現状と解決・解消策について報告してもらいます（到達目標②に対応）。

*第 2 回の授業でグループわけ（4 人一組）を行います。その後は指定した席に座ってください。

授業の冒頭で、自学自習の内容をグループ内で発表してもらいます。発表とそれを題材にしたディスカッションに耐えられるよう、しっかり自分の意見をまとめておいてください。(⑥)

*セクションの終わりに小レポートを課し、みなさんの理解を確認します。小レポートは返却しますので、指摘された点を次の小レポートでは改善できるように努めてください。(⑦)

☒ 自学自習のためのアドバイス (⑧)

- 第 2 回 家族問題（児童虐待以外）を扱った新聞記事を集め、授業時に紹介できるよう準備する。
第 3、4 回 インタビュー調査（5 名以上を対象とする）を実施し、「家族とは何か」考察する。
第 5 回 「現代家族の定義」について小レポートを作成する。
第 6 回 児童虐待を扱った新聞記事を集め、授業時に紹介できるよう準備する。
第 7、8 回 児童虐待を防ぐための支援策について調べ、整理する。
第 9 回 「児童虐待の現状と課題」について小レポートを作成する。
第 10～13 回 第 14・15 回での報告に向けて新聞記事や関連図書を読み、報告資料を作成する。
第 14 回 「子どもの貧困」について小レポートを作成する。

☒ 評価方法の詳しい説明 (⑨⑩)

期末テスト（講義内容を理解しているか評価します）

・・・語句選択形式で知識を問う内容を出題。50 点満点。

グループ発表（グループワークの成果を評価します）

・・・プレゼンテーションをみて教員が評価。10 点満点。

他のグループからの評価。10 点満点。評価基準は次の 7 点。

- ①特定の子ども問題の現状を説明している。
- ②特定の子ども問題の解決策・解消策を提示している。
- ③現在行われている支援策をレビューした上で、独自の解決策・解消策を提示している。
- ④声の大きさ、リズム、抑揚が模範的である。
- ⑤言葉使いが適切である。

⑥発表時間を守り、発表の時間配分と速度が適切である。

⑦発表の段取りを周到に準備した跡がみられる。

小レポート（講義内容と自学自習で勉強した内容を評価します）

・・・配点は次の通り。①文章の構成（10点）、②主張（15点）、③誤字脱字（5点）。

☒ 受講のルール

- ・ 毎回出席をとります。15分以上の遅刻は欠席として扱います。
- ・ 公欠の場合は、欠席届を最後の授業までに提出してください。
- ・ 携帯電話・スマートフォンは使用しないこと。また、マナーモードにしてください。ただし、課題遂行のために必要な場合、各種障がい補助はかまいません。
- ・ 基本的に私語厳禁。まじめに聴いている人の迷惑になります。
- ・ 授業中に食事はしないこと。アルコール以外の飲み物は飲んでもかまいません。

☒ 教科書

教科書：南本長穂・山田浩之編著（2015）『入門・子ども社会学』ミネルヴァ書房。

＊生協で販売しています。第2回の授業までに各自で購入しておいてください。2,400円。

参考書等は授業中に適宜紹介します。

☒ 授業担当者自己紹介

－担当者略歴

香川 花子（Kagawa Hanako）

山口県長門市生まれ。山口県立大津高等学校→広島大学教育学部→広島大学大学院教育学研究科教育学専攻（博士課程前期）→広島大学大学院教育学研究科教育人間科学専攻（博士課程後期）。2015年香川大学大学教育開発センターに着任。現在、香川大学大学教育基盤センター講師。

－専門領域

教育社会学

－好きなもの・こと

- ① ムーミン：気がついたら研究室も家もムーミングッズがいっぱい……。フィンランドにいつか行きたいと思っています。
- ② ヨガ：毎朝、太陽礼拝（ヨガのポーズ）をしてから出勤しています。
- ③ スターウォーズ：旧三部作が好きです。ジェダイの騎士になりたいと思っていました。



☒ 担当者とのコンタクト

オフィスアワー（質問、相談の受け付け時間）は金曜日 10:30～11:00。研究室は5号館4階です。会議等で指定時間に不在の場合もあるので、重要な用件の場合、授業の際かメールでアポイントを取ることを勧めます。毎回の授業で配布するミニレポート用紙に質問を書いてもかまいません。

メールアドレス：kagawa@cc.kagawa-u.ac.jp

研究室の電話：087-832-●●●●

☒ おわりに

この「詳しいシラバス」は、授業終了時にまで関連する内容を含んでいるので、なくさないようにしましょう。半年間の短い間ですが、どうぞよろしくおねがいします。お互いに力を合わせて良い授業にしていければと思います。

シラバスの書き方 練習問題

課題 1. 次の3つの目標の問題点を指摘し、書き直してください。
正解はひとつではありません。

1. ロシア語で日常会話を楽しむことができる。

★ 問題点

★ 書き直し

2. 家庭料理の基礎をマスターさせる。

★ 問題点

★ 書き直し

3. 四国八十八箇所をビデオやDVDで見て、悟りへの道に到達することを期待する。

★ 問題点

★ 書き直し

課題2. ご自身のシラバスの目標・評価に関わる情報を見直してみてください。

修正前

修正後